

香川県文化芸術振興計画における評価指標について

平成 25 年 3 月

「香川県文化芸術振興計画」（平成 25 年度～平成 29 年度）を策定（第 2 期）

戦略的重点事業のうち特に重要な取組については、7 項目の数的目標と 8 項目の質的目標を明らかにし、その取組の効果を測ることとした。（※別紙 1 参照）

平成 30 年 3 月

「香川県文化芸術振興計画」（平成 30 年度～平成 34 年度）を策定（第 3 期）

計画を実効性のあるものにするため、文化芸術に対する県民意識の現状や施策の進捗状況を測る目安として成果指標を設定し、数値の推移を客観的に検証しながら、施策の着実な推進に取り組むとして 4 つの定量、定性目標を設定。（※別紙 2 参照）

○「香川県文化芸術振興計画」（平成 30 年度～平成 34 年度）で指標を減らした理由

- ・第 3 期計画は第 2 期の更新ではなく、一から検討を行う中で、多くの指標を設定したが、数字を追うことで「やった感」を得ることに終始してしまった。
- ・第 3 期計画では、指標にはこだわり過ぎずに、基本方針の 3 つの柱のうち、「文化芸術による地域づくりに重点を置いた指標を設定した。

※基本方針「文化に芸術による地域づくり」

国際的な知名度を有する瀬戸内国際芸術祭をはじめとして、香川の特色ある文化芸術を活かした地域活性化やブランド形成につながる取り組みを進めるとともに、文化財など文化資源の充実と積極的な活用を図ることで、県民がふるさとに誇りを持ち愛着を感じるような「元気」な地域を創生します。

- ①世界から注目されている瀬戸内国際芸術祭を人材育成や地域づくりの柱として引き続き実施します。
- ②アート県ブランドの形成につながる魅力的な祭典や展覧会等を開催します。
- ③文化資源の掘り起こしや磨き上げを図り地域づくりに積極的に活用していきます。

香川県文化芸術振興計画(平成25年度～平成29年度)【計画目標】の進捗状況

項目		H26年度	H27年度	目標		達成状況
文化芸術新人賞受賞後の活動状況		平成25年度の受賞者3名にアンケート調査を実施	平成26年度の受賞者3名にアンケート調査を実施	受賞後の芸術活動が活発に行われ、本県の文化芸術の振興につながる		資料1ー3 参照
アートマネジメント人材育成 （養成された人材の活動の状況）		平成26年度アートマネジメント講座受講者111名に対し意見聴取を実施	平成27年度ワークショップ受講者35名に対し意見聴取を実施	養成された人材が文化芸術活動に関わることにより、芸術家と県民、行政、企業などとの良好なつながりが生まれ、地域が活性化されること		資料1ー3 参照
県立ミュージアム（分館も含む）入館者数		（H23～H26累計） 687,963人	（H23～H27累計） 892,694人	H23～27年度の累計 922,000人 （現状H18～22年度累計 878,000人）		97%
東山魁夷作品の本画所蔵数		8点	8点	計画期間中 8点 （現状24年度 7点）		100%
かがわ文化芸術祭						
	鑑賞者数	（H25～H26平均） 5,440	（H25～H27平均） 12,194	H25～29年度の平均 （現状H20～23年度平均）	14,000人 （13,023人）	87%
	参加公演・行事数	（H25～H26平均） 93	（H25～H27平均） 93		100 （92）	93%
芸術家等の創作活動の支援・交流						
	招致後の芸術家等の活動状況	平成25年度芸術家村招致芸術家6名に意見聴取を実施	平成26年度に県内2市町が実施した芸術家村招致作家に対し意見聴取を実施	本県で創作活動を行った芸術家等が、地域とのつながりを作り、その後も躍進を続けること		資料1ー3 参照
	地元参加者の意識	平成26年度に県内2市町が実施したアートワークショップの地元参加者に対し意見聴取を実施	平成27年度に県内2市町が実施したアートワークショップの地元参加者に対し意見聴取を実施	地元参加者が文化芸術に親しむとともに、地域が活性化されること		資料1ー3 参照
「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録（札所寺院及び遍路道の保護措置数）		6か所	6か所	H27年度 7か所 （現状24年度 4か所）		67%
かがわ郷土芸能フェスタ （参加団体数）		（H25～H26平均） 14団体	（H25～H27平均） 12団体	H25～29年度の平均 12団体 （現状H20～23年度平均 11.3団体）		100%
讃岐国府探索						
	讃岐国府跡の探索	区画内でこれまでの国府跡の調査で最大規模の柱間の大型建物跡を確認	区画内でこれまでの国府跡の調査で最大規模の柱間の大型建物跡を確認	讃岐国府跡の解明 （現状24年度讃岐国府の施設跡の一部を検出）		40%
	報告会・講演会・展示会などの参加者数	（H25～H26平均） 延べ 3,600人	（H25～H27平均） 延べ 3,497人	5か年平均 3,200人 （現状H21～23年度平均 2,843人）		109%
高松国際ピアノコンクールへの開催支援						
	優勝者などの活動の状況			ハイレベルな演奏に触れることで県民の芸術的感性が育まれるとともに、優勝者等の国内外での活躍を通じて、香川県の文化芸術に関する拠点性が高まること		
	コンクール開催による地域への波及効果			開催効果を県内各地域に波及させることで、地域が活性化されること		
さぬき映画祭						
	映像作品制作後の活動状況	平成25年度の優秀企画上映作品制作者2名の活動状況を調査	平成26年度の優秀企画上映作品制作者2名の活動状況を調査	映像制作に携わる人材が育成され、香川の映像文化が活性化されること		資料1ー3 参照
	講座受講後の活動状況	平成25年度のシナリオ講座受講修了者15名にアンケート調査を実施	平成26年度のシナリオ講座受講修了者20名にアンケート調査を実施			資料1ー3 参照

- ・ 地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定する「日本遺産」について、県内の市町による申請を支援するとともに、認定された資産については、観光やまちづくりなどの分野と連携しながら、環境の整備や情報発信等を通じて地域の活性化を図ります。
- ⑨ 生活文化の普及等
 - ・ 文学や、茶道、華道、郷土料理、盆栽その他の生活文化の普及振興に努めます。
- ⑩ ボランティアの育成・協働
 - ・ 文化芸術への県民の主体的な参加を促進させるため、県立ミュージアムなどの文化施設における活動や、その他様々な文化芸術の取組みにおいて、ボランティアの育成や協働に努めます。

1 2 計画の検証

この計画を実効性のあるものにするため、文化芸術に関する県民意識の現状や施策の進捗状況を図る目安として成果指標を設定し、数値の推移を客観的に検証しながら、施策の着実な推進に取り組みます。

なお、当面は、国の「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次基本方針）」の指標などを参考に、以下のとおり目標値を設定することとします。

〔指標1〕かがわ文化芸術祭の参加団体数

現状値（平成29年度）85団体 ⇒ 目標値（平成34年度までの5年間の累計）500団体

〔指標2〕文化芸術を鑑賞している県民の割合

現状値（平成29年度）68.7% ⇒ 目標値 平成34年度に73%

〔指標3〕文化芸術活動を行っている県民の割合

現状値（平成29年度）40.2% ⇒ 目標値 平成34年度に44%

〔指標4〕文化芸術の活用により、住民がふるさとに誇りを持ち、元気な地域の創造につながっていると考える県民の割合

今後の調査における現状値から目標値を設定し、達成状況を把握していく。

目標と方向性

目標

断トツの^{アート}文化芸術の力で香川を日本一住みたいまちに

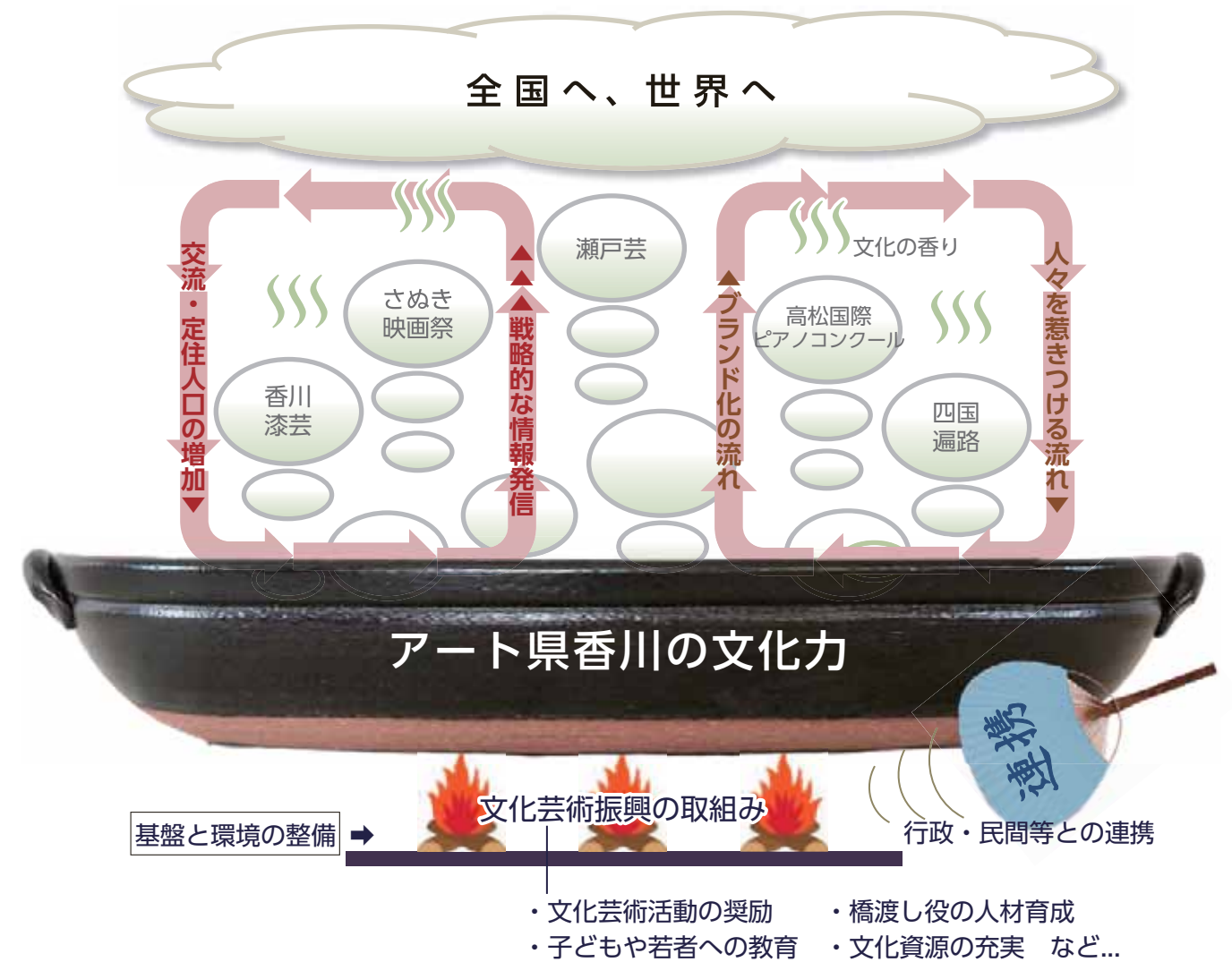
方向性

香川の文化力アップのため文化資源をすべての県民のために人々を惹きつけてやまない魅力あるアート県ブランドを確立

この目標には、文化芸術の持つ多面的で広範囲な意義と効果が地方にもたらす様々な恩恵をまちの魅力向上に結びつけ、他地域との差別化を図ることで、県政の最重要課題の1つである人口減少問題の克服、特に若者の定住促進につなげていこうという意図が込められています。

その実現に向け、「文化資源をすべての県民のために」という対内的方向と「魅力あるアート県ブランドの確立」という対外的方向の2つの方向性を定めました。右の図では、それを1つの鍋にとえています。鍋の中に材料として入っているのは文化的ポテンシャルで、そこに熱を加えて煮込むというのが文化芸術振興施策の役割であり、第一の方向性です。これにより鍋の上部では対流が発生します。上向きの流れは情報発信で、鍋から立ちのぼる文化の香りを全国、そして世界に運ぶ、ブランド化という第二の方向性であり、その香りが全国や世界に達し、人々を惹きつけるという下向きの流れになります。この対流を活発化させてポジティブな循環を形成することで、交流人口や定住人口の増加を図り、香川をさらに元気にしていきたいと考えています。

施策体系



I 文化芸術を担う人材の育成

(1) 県民による文化芸術活動の奨励

- ① 県民による文化活動への支援
- ② 香川県美術展覧会の開催
- ③ 地域の文化力向上への貢献に対する顕彰
- ④ 文化芸術新人賞の表彰と活動支援

(2) 県民と文化芸術の橋渡し役となる人材の育成

- ① アートマネジメント人材の育成
- ② かがわ文化芸術祭の開催
- ③ 断トツアートの伝導
- ④ 県民が文化芸術に触れる機会の充実

(3) 子どもや若者が文化芸術に触れ創造性を育む機会の充実

- ① 未来の音楽家の育成
- ② 未来のアーティストの育成
- ③ 教育委員会と文化施設の連携による文化芸術教育の推進

II 文化芸術を育む環境の整備

(1) 県民が文化芸術に親しむ基盤と環境の整備

- ① 県立文化施設の利用の促進
- ② 中核施設としての県立ミュージアムの機能強化
- ③ 東山魁夷せとうち美術館の活用
- ④ 瀬戸内海歴史民俗資料館の活用
- ⑤ 県民ホールの効果的な運営と活用
- ⑥ 優れた舞台芸術鑑賞の機会の充実
- ⑦ 高齢者、障害者、経済的弱者等が容易に文化芸術に触れることができる環境の整備
- ⑧ 置県財団の運営基盤と機動力の強化

(2) 関連分野における行政・民間等との連携

- ① 関連する行政分野との連携強化
- ② 市町との連携
- ③ 民間等との連携
- ④ 文化施設間の連携強化

(3) アート県ブランド確立に向けた戦略的な情報発信

- ① 多様な情報インフラやメディアを活用した情報発信
- ② かがわアートナビの発信力強化
- ③ 県内向け情報発信基盤の整備

III 文化芸術による地域づくり

(1) 瀬戸内国際芸術祭の実施

- ① 国際的なブランド力を活かした瀬戸芸の開催

(2) 魅力的な祭典や展覧会等の開催

- ① 県立ミュージアムでの大規模展覧会の開催
- ② 東京藝大との連携による展覧会の開催
- ③ さぬき映画祭の開催
- ④ 高松国際ピアノコンクールの開催支援

(3) 文化資源の充実と地域づくりへの積極的な活用

- ① 文化財や文化遺産の整備保存と積極的な活用
- ② 文化財の防災や被災修復の専門家養成
- ③ 美術品や歴史資料の収集保全と積極的な活用
- ④ 祭りや民俗芸能の継承と活用
- ⑤ 香川漆芸の技法の継承
- ⑥ 香川漆芸のブランド化の推進
- ⑦ 四国遍路の世界遺産登録の実現
- ⑧ 日本遺産認定の支援と認定資産の活用
- ⑨ 生活文化の普及等
- ⑩ ボランティアの育成・協働